



読書百遍意自ずから通ず

子供たちが生涯学び続ける上で、伝えたい言葉があります。「**読書百遍意自ずから通ず**」です。

これは、中国の古典「三国志」に由来する言葉で、**書物や文章を何度も読み返すことで、自然と理解が深まるという、学習の基本**を示しています。

とかく私たちは、児童・生徒に限られた時間内で解を見出すことを求めがちです。しかしながら私は、**学ぶという知的な行為の尊さは、疑問や分からないことにこだわり、根気よく探究し続けることにある**と捉えています。



芥川賞作家の**又吉直樹氏**は、同じ本を何度も繰り返し読むそうです。読むたびに新たな発見があると、著書「夜を乗り越える」の中で述べています。

ドジャースの**大谷翔平選手**も、よく本を読むそうです。ビジネス書では稲盛和夫著「生き方」や渋沢栄一著「論語と算盤（そろばん）」を繰り返し読むとのこと。

私も「論語」のほか、松下幸之助著「道をひらく」、稲盛和夫著「心を高める、経営を伸ばす」等、数冊の本を折あるごとに再読します。時を経て読み返すことで、経験や考え方の変化と相まって、以前とは異なる学びを得ています。

知行合一

実業家 渋沢栄一

すべての事は、思うと同時に行わねばならぬ。思う前にまず学ばなければならぬ。いわゆる知行合一（ちこうごういつ）は、陽明学の骨子で、孔夫子（こうふうし）も「**学ンデ思ハザレバ即チクラシ、思フテ学バザレバ即チアヤフシ**」と言われた。古人は決して我を欺（あざむ）かぬ。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 知行合一は、信頼を生みます。